

新入会員として

(仙台) 佐々木 交賢

私は、従来から非常に大きな関心は持つていましたが、今度初めて村落研究会に入会した者です。今年の村研大会が仙台で開催されるし入会したらという友人の勧告もあり、自分も好機だと考えて思い切つて入会した次第です。

十年前村研が結成されて以来、数々の優れた業績を著実に挙げてきた事を間接的には知つていました。と申しますのは、私は残念な事に、大会には一度も出席した事がなく、ただ年報に眼を通し、周囲にいる会員の方達から大会の様様を耳にするに過ぎなかつたからです。

それでも、年報を手にし、大会の様様を聞くだけでも村研の努力と成果、大会での発表、討論の活潑さがわかり、内心驚いていました。

私も農村出身というだけの理由ばかりではなく、日本社会において農村、農業が有する意義という点からも農村の諸問題について強い関心を持ち続け、また実際に調査に従事して来ました。しかし偽りのないところ、自分の調査の結果と比較して、村研の研究成果の大きさと大会での討議の活潑さに心理的圧迫を受け、村研の会員でなければ農村を語る資格はないのかも知れないという気持ちに襲われた事がありました。私も農村調査に当つては、従来と全く異なつた新しい角度からアプローチして農村の全貌を知り、農村の本質を把握するとともに、調査法、調査技術についても新機軸を出したいという意欲だけは人一倍もつていました。しかし農村とはいへ、その性格と構造は極めて複雑ですから短日月で農村の全貌を知りつくし、調査理論をつくりあげるといふ事自体無理な注文でした。

今述べたような、自分に対する負い目をもつていたため、村研に加入しても自分が益々惨めな心理状態に陥るばかりだと半ば恐れを抱いていました。けれども、友人の勧告があつた時、やはり村研に加入して多くの方からむしろ積極的に知識を摂取し、また自分の意見についての批判を乞う方が今後の自分の研究にとつて大きなプラスになると思い直して加入した次第です。そして加入した時、新しい喜びを発見しました。それは私が加入したのは村落社会研究会であつて、日本村落社会研究会ではなかつたという事です。と申し

ますのは、もし日本の村落社会の実態と性格を正しく知ろうとするならば、やはり外国における文化(社会)人類学等々の研究成果を充分評価して、それによつてとりあげられてゐる諸社会との比較対照によつてこの目的表現がなお一層可能となるからであり、また極めて陳腐をいひ方かも知れませんが、人間社会は各々その特殊性を有していると同時に、人間である限りで、いかなる地域の人間社会にも必ず普遍的な原理が存するから、そうした普遍性と特殊性の両側面を知る事は是非必要で、今後村研がそうした方面での研究にも力を注ぎ、出来れば外国の諸社会の実態調査にも乗り出してくれる事を期待し得るという事を発見したからです。しかも村研には社会学・経済学・民俗学等々多様な分野での専門家が加入しておられるので文字通り総合的調査が可能となるわけです。同様に国内の村落の共同実態調査も期待し得ます。課題研究の方法としては各種の有益な方法がありましようが、各専門領域の人々が同一の対象地を共通課題の下で調査する方法もまた大いに有益であると思ひます。しかしそれだけでなく、課題研究と平行して自由発表にも大いに機会を与えてほしいと思ひます。モスの表現を借りるまでもなく、我々が社会の本質を正しく認識するためには全体的社会現象の把握に意を用いなければなりませんし、種々の社会現象が相互に有機的に関連しているという事から、自由発表でとりあげられる諸現象、

諸問題についての考察が課題研究でとりあげられる諸現象、諸問題についての考察と密接な関連を有し、両者が相互に補足し合い、そこから相互に示唆を受ける事が出来る事を期待し得ますし、そして自由発表を盛んにし、課題研究と有機的に関連させる事によつて村研の多面的な活動が出来るからです。また、今述べた社会諸現象の有機的関連と結びつけて申上げたい事は、これ迄日本の農村研究では同族論、構造論、共同体論と各種の理論が展開されて来ましたが、そしてこのような理論の展開は何によつて村落の本質を正しく把握する事が出来るかという問題ともつながつていたと思います。しかし、これ迄展開され、とりあげられて来た理論、問題のどれか一つだけが村落の本質を理解する唯一の鍵ではなく、換言すれば、あれかこれかの問題ではなく、これ迄の理論、問題を結集して総合的な考察を加える事によつて初めて村落の本質を理解する事が出来ると考えますから、村研の誕生十周年を記念して、これ迄の研究成果の総整理、集大成をしてみる事も一つの案ではないかと思ひます。また、村落本質の理解の問題は同時に研究方法の問題でもあるわけで、最も基礎的なことも知れませんが、調査方法を如何に確立するかという問題も重要かと思ひます。そして、実態調査といへばすぐ理論と調査の関係が云々されますが、この事は村落研究が、村落の研究自体を目的とするのではなくて、それは人間の真実の姿を知るた

めの足掛りに過ぎない事、つまり、どのような社会でも展開される人間の姿が村落でもまた展開されているのであるという事を認識し、人間が過去から繰返しくりひろげて来たし、また将来も繰返してゆくであろう姿を把握する態度を忘れない事によつて、両者の関係の問題解決の道もおのずから開けて来るのではないのでしょうか。ですから、今後私は決して村落社会という字句に拘泥しないで、人間社会の本質を探究する為の場として村研を理解し、のびのびと自由に振舞いたいと思ひます。

最後に、各学界の展望と成果の紹介については会員以外の方々の優れた業績にも眼を通して下さる事、出来るだけ会員を多数獲得されるより希望します。

全く素人のような、見当違いの勝手な事を乱雑に並べたててしまいました。しかし加入した動機と、今後の自分の在り方、村研に希望する事を私なりに率直に述べたつもりです。